郡上農林事務所の普及活動状況

令和３年３月 25 日現在

今月の重点活動

■スマート農業　オンラインセミナーにて実証プロジェクト成果を発表

3月3日開催された「岐阜県スマート農業オンラインセミナー」において、今年度取り組んだ「ひるがの高原だいこんスマート農業実証プロジェクト」の成果を農業普及課が発表した。

県主催の当セミナーには、農業者や関係者ら約70名がリモートで参加しており、農業普及課からはプロジェクトで作成した紹介動画のあと、今年度実証に取り組んだスマート農業機械の実証結果について収集したデータを用いて報告を行った。

関係機関と共に取り組んだ実証プロジェクトでは、スマート農業のメリットや課題などが明らかとなり、次年度は夏だいこんの新たな営農技術体系確立に向け取組みを計画している。

【ｵﾝﾗｲﾝｾﾐﾅｰでの発表】

農業普及課では、今後もスマート農業技術を生かして、ひるがの高原だいこん産地の振興を支援する。

多様な担い手づくり

■新規就農　令和２年度清流の国ぎふ農業担い手証書を交付

農業普及課では、本年度の新規就農者に対し「清流の国ぎふ農業担い手証書」を手交した。例年は、交付式を開催しているが、新型コロナ対策のため昨年と同様、個別での交付となった。

今年度、郡上管内では３名の交付対象者があり、３月 18 日より順次、訪問をしている。

郡上市明宝の新規就農者は、交付に際して「大変な年に就農したが、まずまずの結果を残すことができた。」と１年間を振り返って感想を述べられた。

農業普及課では、引き続き新規就農者の育成・定着の支援を進めていく。

【担い手証を受取る就農者】

売れるブランドづくり

■フランネルフラワー　「ファンシーマリエ」秋出荷に向け苗仮植

郡上市内において、２戸の生産者が切り花向けのフランネルフラワー「ファンシーマリエ」の出荷に取り組んでいる。

郡上地域のフランネルフラワーは、3月ごろに出荷ピークとなるが、並行して秋出荷に向けて春先から苗の準備が必要となる。

3月23日には、農業経営課・農業技術センターが立ち合い、生産者ほ場において、は種苗の仮植指導を実施した。生産者は、質問を交えながら農業技術センター職員からの説明を熱心に聞くなど、次期作に向けた意気込みが感じられた。

農業普及課では、継続した技術指導を通じて中山間地における切り花フランネルフラワーの栽培技術を確立し、生産者の所得向上に向けた支援を行う。

【仮植後の管理について説明を受ける生産者】

■だいこん　**オンラインによるスマート農業実証プロジェクト評価会**

【ｵﾝﾗｲﾝで評価を受ける】

3月18日、新型コロナ影響緩和のための緊急経済対策として令和2年度に取組んだ「労働力不足の解消に向けたひるがの高原だいこんスマート農業実証プロジェクト」の成果に対する国の評価会がオンラインで開催された。

プロジェクトの進行管理役である農業普及課は、コンソーシアム代表である県農政課スマート農業推進室、実証経営体の(株)エンスタンシアとともに出席し、今回の実証事業で得られた成果や今後の課題について報告した。

評価委員からは、導入効果や今後の普及見込みについて質問があったが、指摘事項などはなく無事終了した。

農業普及課では、得られた成果を生かして、次年度もスマート農業の普及に取り組む計画である。

■夏秋トマト　**令和3年度産夏秋トマトの育苗進む**

【ポットへ植付け前の苗】

郡上園芸特産振興会夏秋トマト部会にて、令和3年に向けたトマト苗の育苗が始まっている。

夏秋トマトの苗は、2月から台木と穂木の播種を行い、3月に接ぎ木をしたあと、1カ月ほどポットで育苗して定植となる。

今年は、台木に新品種を導入したことや3月の気温が高めであったこともあり、接ぎ木の活着率は高かったが、生育としてはやや徒長気味で推移している。

農業普及課では、特に育苗時での病気の感染を防ぐため作業の都度に消毒するなど、資材や苗の取り扱いに注意して作業を進めるよう呼びかけている。

■水稲　**「オーダーメード型米産地づくり研究会」キックオフ会議**

3 月 17 日、「オーダーメード型米産地づくり研究会」と題して、県で新たに育成された品種「岐系 207 号」の試験栽培に向けたキックオフ会議が、岐阜県福祉・農業会館等で開催された。

郡上管内で 2ha 近い栽培を予定していることから、農業普及課もオンラインで会議に参加し、新品種の特性や研究会の活動方針、今後の計画について協議した。

農業普及課では、関係機関と連携して新たな販路の確保など意欲のある農業者の支援や郡上産米のＰＲに取り組む。

魅力ある農村づくり

■えごま　**えごまパン・プロジェクト開催**

【えごまパンのチラシ】

市内の特産品を知ってもらうため郡上市産業支援センターが企画した「郡上産えごまパン・プロジェクト」に、農業普及課が支援する白鳥東部えごま生産組合が協力している。

プロジェクトでは、組合がえごま子実を郡上市内 6 カ所のパン屋へ提供、それぞれの店が工夫を重ねて「えごまパン」を商品化し、3 月上旬から 1 カ月間ほど販売した。

消費者からは好評で、通年販売の要望も上がっていることから、組合では十分な量の子実を供給できるよう次年度の栽培面積拡大を検討している。

農業普及課では、今後も関係機関と連携してえごまの生産振興に向けて支援を行う。